

令和7年度 学校教育目標「挑戦 つながる笑顔 丹那の子」

重点目標「自ら学ぶ子」「発信する子」「やり抜く子」



丹那小だより

函南町立丹那小学
令和7年8・9月発行

「共有体験」で自尊感情を高める

校長 土屋 清隆

毎年6年生を対象におこなわれる「学力・学習状況調査」の結果が公表されました。調査の中には「質問紙調査」として、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査が行われています。

その中には「自分には、よいところがあると思う」という、自分らしさ・自己肯定感に関するものや、「人が困っているときは、進んで助けている」のような思いやり・利他意識に関するもの、「将来の夢や目標を持っている」という生きがい・希望に関するものなど、個々の意識への設問が様々含まれています。また、令和5年度からは「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。」という、幸せの実感をストレートに聞く設問も加わっています。



2年生算数「水のかさ」

これらの質問に対する丹那っ子の回答は毎年非常に高い（良い）結果が出ています。今年は特に「普段の生活の中で幸せな気持ちになる」の質問に対してはA評価が100%でした。他の質問についても、C・D評価がほとんどなく、自尊感情の高さがうかがえます。

自尊感情は、他との比較から生ずる「社会的自尊感情」と、比較や優劣とは関係なく「自分はこのままでよいのだ。」と思える『基本的自尊感情』に分かれます。

ほめたり賞賛したりすることにより「社会的自尊感情」は膨らみます。ほめられなくなれば、しぼんでしまいます。一方、「ありのままでの自分でもいいのだ。」という『基本的自尊感情』は、子供の心の頑丈な土台となって成長を支え続けます。

この『基本的自尊感情』は、幼い頃は家族の絶対的な愛情で、その後は親しい人との「共有体験」で育ちます。



令和6年度オール丹那運動会の様子

2nd ミッション「CS オール丹那運動会」では、園児からお年寄りまで幅広い年齢層の方々と、秋の一日を過ごします。順位や技の優劣だけではなく、みんなと一緒に活動する心地よさや、感情をともにする安心感を味わえる行事にしたいと思います。

それぞれの行事を「共有体験」することで、知識や能力だけではなく、これからの人生を支え続ける『基本的自尊感情』も育ってくれることを願っています。